4.祝うこと

質問：祈りと典礼において、信徒を含め、信者全体は、どのように参加しているでしょうか。
参加は広がっているでしょうか、後退しているでしょうか。

信徒みんなで祝う心が大切
ミサは祝うことだということを忘れがちになっていることに今回気づかされた
コロナ禍は、ミサの在り方を見つめなおすチャンス
ミサ参加は後退しているが、個人の祈りと幅広くとらえると個々によって変ると思う
信徒全体ではないが、喜んで積極的に祈りと典礼に参加している信徒もいて、求心力になっている
共に集うことを喜びとしている人たちが多く、高齢者、遠距離などの状況でもミサの参加率は高い
障がいのある人たちには送り迎えなどお互い助け合いながら参加している
依頼できる司祭が少なくなっており、ミサを行うことが難しく、また未信者の生徒・教職員が大半で、感覚の違いを感じる場面が多い。

聖書朗読をさせてもらえるとうれしい、いろんな人にやってもらったらいい
コロナ禍になって聖書朗読をする機会が与えられた
ミサに与ることは、祈りによって心がつながること
ミサに与ることで気づきがあり、みことばが生活にストンと落ちる瞬間は嬉しい
ミサは喜びの源であり、困難の中で自分を励ましている
ミサへの参加は自分の生活のために大切なこと
久し振りに教会のミサで出会えたときの喜びなど、ミサに与れる感謝を忘れずにいたい
心地よい、安心できると感じられるように努めている

居場所がない人には教会が重要な場所
ゆるし合えるように祈る
神と共に歩むことができるよう、信仰が深まることを祈りながら参加していると思う
大切な典礼行事の予定を葉書で送ることで、普段ミサに与れていない人も逃さず参加できる
外出しにくい人の車での送迎や、ミサ中の介助をすれば参加しやすい
高齢者や一人暮らしの方がミサを楽しみにして参加できる
祈りへの参加は個人でも可能であるが、祈りと典礼の極みはミサに授かること
ミサへの参加は日常生活の区切り、節目のけじめとして大切

家庭での日々のお祈り
今年から正午にアヴェ・マリアの祈りを唱える（正午でなくても１回は唱える）という提案
正午のアヴェ・マリアの祈りは信徒一致・連帯を生むことが実感でき、喜びにつながった
生活のあらゆる場面においても、祈りと感謝を心がける
教会での参加は、コロナ禍で多くの制約の中、弱いが、家庭での祈りや人々の祈りは、深く生きている
ミサに与れなくても、祈りまたは小さなグループの交わりで関わっている人もいる
ミサに参加出来なくても「イエスと共にある」実感が大切
祈ることによってイエスと親しくなり話す、主が語り掛けることを聴き、それを受け容れる
祈りとともに人を想うことがしっかり後から付いてくる
主とふれあう、話す、聴く、それができるように祈る
聖書や祈りの集い

遠出したときなどには教会があったら訪問してお祈りする
キリストとの会話を願い、自分の責任によって参加している
ミサの準備をすることも典礼を祝うことに繋がる

ネットのミサによって、教会に来なかった人、来られなくなった人も参加でき、広がった
ネット配信のミサで、他の教会の様子がわかってよかった
ネット配信のミサの司祭のホミリアで福音の理解が深まった
ネットによるミサ参加や祈りのうちに神との一致をより深められている気がする
オンラインミサによって、逆に御聖体拝領の喜び、感謝を実感することが出来た
平日の仕事でへとへとになっているときにYOUTUBEのミサがあって助かった
最近はYouTube配信が増えてよく見ることができる
ZOOMや動画でミサに参加
ネット配信のミサを見ていると、ミサに参加したいという思いが強まった
コロナ禍では、ミサのテレビ配信やユーチューブのお陰で気持ちが安らぐ
コロナ禍でミサがない時もユーチューブで与っている
オンラインのミサは代用でしかないが、併用することも一つの可能性になる
動画ライブ配信でミサや黙想会、講話などを視聴している
たびたびミサが中止になって、感染に気を付けながらミサを大切に守っていこうという意識が強くなった

日本人信徒は高齢化で次の世代もいないが、ベトナム共同体・フィリピン共同体は積極的に奉仕している
日本で就労している外国人の方が、ミサに参加、奉仕して下さっているので、ミサの参加者が増えた
ベトナムの方にベトナム語で朗読してもらうほか、クリスマス等の飾りをお願いし、楽しく過ごす
全般的には後退しているが、ベトナムの若い人の協力がすばらしい
ベトナムやペルーの家族は、多く子どももともに家族でミサに参加されている
子どもたちに役割を頼むと、引き受けて役割をしてくれて素晴らしい
参加しづらい信徒とつながるため、共同体の霊的一致のために、同じ時刻・同じ意向の祈りをしている
ロシアとウクライナについてみんなでともに祈れてよかった、思いが共有できた
ウクライナの戦場を見ていて今は祈ることしかできない、特にプーチンに対しては祈るしかない

みんなの前で聖書朗読することで自分の中に入る
病気してからは感謝でいっぱい
復活、死んでも生きる、肯定的な生き方、神が共にいてくださる、否定的なことは口にするとそうなる
希望を信じて祈りを頑張る、これが努め
信徒が亡くなられた時は主人と共に参列をする
悩みごとや、人のために祈願するときは、熱心に参加する

ミサ当番、花活け、朗読などを通じてミサに積極的に参加する
ミサ当番を担うこと、典礼を学ぶこと
典礼部奉仕者として、ミサが捧げられる時は毎回参加している
地区当番や教会学校が当番にあたっているミサでは、役割を担って参加している
協力的な、前向きに考えている方が多いし、お願いしたら協力してもらえる
典礼暦によって行われるミサに参加する

コロナ禍でミサの奉仕を工夫して行うように変化したし、できることで参加したい
コロナ禍・看介従事者と家族等参加出来ないが、デジタルミサ参加もあり、後退とは思わない
コロナ禍で教会でのミサの回数は減ったが、その分、家庭での「教会の祈り」の YouTube への参加等で、
祈る機会は増え、年間の典礼に基づいた祈りが出来るようになった。
コロナ禍でミサ中に声を出して歌わないので、かえって落ち着いてミサに与れる

ミサに参加し、ゆるしの秘跡を受けている
ミサに参加、意識している、感謝して、集中するように参加
主日のミサに与ること、祝日のミサに与ること
主日のミサに与れない人のために平日にもミサをしてくださったことがありがたかった
ミサに参加しているだけでもいいのではないかと思う
司祭の homily を毎日夫婦で分かち合っている
毎日みことばを LINE の配信で読めるのはありがたい

聖書通読などの勉強や黙想会やブロックでのいろいろな行事への参加や活動
毎年実施する黙想会(2日間)は、概ね生徒・教職員に好評である(教育機関)
出来る範囲で積極的に典礼、行事、活動に加わること
参加の後退は年齢的なもの、老いれば毎日自分なりの祈りしか出来ない
ただ教会へ行くだけでもお友達が出来れば横のつながりが出来、信徒であることの誇りが芽生える
教区時報や聖書と典礼、教会独自のニュースなどを送っている

適正配置で統合されたことで、広がりができた
子育てでこられなかった。見知らぬ教会へきてまだなじみのないとき、声をかけてくれた人があった
コミュニティが大きくなりすぎて、ほとんど誰なのかわからないが、小さな集団の中ではつながりはできている
共同体の信仰がお互いの信仰を支え、励ましている
強引に侍者を命じられて教会へ来るようになった

外国のコミュニティの方のミサに行くと笑顔がいっぱいで、迎え入れてもらえている感じがする
クリスマス、復活祭、のお祝いは毎年出席
コロナ禍で参加が難しい現状でも、クリスマス、復活祭は積極的に参加出来ている
復活祭は最近では珍しく多くの参加者があったので、忘れられていたわけではないと思った
教会行事の七五三のお祝いや敬老の日等は暖かい気持ちで、心から一緒に祝いたい
コロナ禍で、自分のためというより、他者のための祈りが増えたと感じる。
コロナ禍で足が遠のいていた人のミサへの参加が少しずつ増えてきている
コロナ禍に加え、ウクロイナ問題などもあって祈るために来る人が多くいる
コロナや戦争のため、個人の祈りも深まり、また感謝する事も増えた。
どうしても祈らなければ解決しない、人間の限界を感じる人々が増え、祈りに参加している人々は増えている

ミサが再開しても集まらなくなってしまうのではないかと危惧したが、そうはならなかった
コロナ前のコアメンバーは変わらずミサに参加している
他の諸派からの転会者や洗礼志願者が、ほんの少しではあるがいる
平日のミサがコロナの関係で大きい方の聖堂でのミサになって、参加者が増えた
教会に戻ってくる人は何かしら神の招きがあって来ている、きっかけがないと戻ってはこない

〈参加の後退・課題〉

典礼の喜びがあまり感じられないので、喜びをもって参加できるためにどうすればよいか考えたい
教会に活気がない
教会との繋がりがあまりない(教育機関)
楽しんで参加できる要素が不足している、楽しい雰囲気づくりが大切
楽しい礼拝の時間にすること
信徒の積極的な参加こそが祝うことに繋がっていくと考える
「祝う」という表現から仲間との「集い」や信仰の「喜び」というニュアンスが感じられるが、現実的には「務め」「回心」「ご利益」といった感覚

祈り、典礼の本質を理解して参加することが大切
参加者の人数よりも、本質を理解しているかどうかが問題
ミサの式次第の変更は、典礼の本質を再認識できるよい学びの機会になる
以前はミサに関する本を読んで典礼の勉強をしたが継続できていない
ミサを「祝う」という感覚に高めるのなら、孤独に苦しむ人、生活に困窮している人など日本の教会が見捨ててきた人々が「祝う」ことの実感できるミサに改革をしてほしい
主日に教会に行くことが、習慣化していないか、ミサに与ることだけが信仰の証か、振り返る必要
ミサ中の応答が、儀式的で、慣れてくると、ただ、言葉を唱えるだけになってしまう
祈り、ミサで習慣的に唱えている感じがある

日曜日のミサに与るだけ
毎回意識を持って、ミサに参加しないと流れ作業のようになってしまうので、気を付けたい
極めて消極的、受け身になり、祈りに参加して〝了〟としている感は否めない
司祭の背中を見てついていく昔の形と意識は変わっておらず、ともに行うミサと言えない
信徒と聖職者がともに典礼を生きるという理解は残念ながら深まっていない

ミサを行うために準備や役割分担など多くの人が必要になるのに、役割分担に消極的な人が多いが驚き
奉仕することに喜びが持てるような学びが必要
生活のリズムのなかにしっかり組み込まれていない
各小教区で祈る共同祈願は、自分の言葉で祈るのが望ましい
教会に行けば友人に会えるという雰囲気が必要

昔は、主任司祭の土曜学校があり、友達に会うのが楽しみだった
昔は、司祭から聖書の話を聞き、共に学び、信徒でない友人を誘ったこともあった
昔は、告解の機会も多く、修道院に連れていってもらったこともあった

ミサや祈りへの参加者は、受洗者のミサ離れ・教会離れを鑑みるに後退している
仕事で忙しく、参加は後退している
信徒であっても参加している方は少ない、参加する人が減っている
祈りへの神聖な時間を大切にしたい、ミサによってはミサ後があわただしい
雑談も大切だが、神様との対話も静かな環境でしたい
日常生活の中でミサに参加することの優先順位が下がって来ている
日曜日ごとのごミサに気持ちはあるけれど、めんどうとか疲れで行きたくない人
ミサに参加だけの日曜信徒もいる

ミサ以外の教会での集まり・交わりも互いの喜びとしてきたはず
ミサに参加するメンバーはほぼ固定化されていて、クリスマスや復活祭のみに参加する人もいる
ミサに来る人のためだけに教会は存在しているのではない
喜びをもって典礼に参加しているが、必ずしもミサに与ることを優先出来る人ばかりではない
同じ人がどの奉仕もしており、負担が多くなっている
先唱者や朗読者は固定化している

朗読が上手な人にしか朗読の機会があたえられていないことは残念
朗読について、いったんは総当たりにしたが、できないと断る人も少なくなかった
朗読、侍者、答唱詩編、アレルヤ唱を外国人一人、日本人一人にして参加しやすくし、ミサ後に担当者が意見交換して、コミュニケーションを深める（日本人だけの場合でも、短時間でよいので話す場を設ける）
部会がまとまりすぎてセクショナリズムを感じるところがある

高齢化によって信徒自身が自力で移動することが困難になったひとも多い
高齢の信徒が多く、若者・子どもがほとんどミサに来ない
信徒の大多数が老人だったことに気づいて驚く
高齢化、若者の教会離れが深刻化している
誘うつもりで車に乗せてあげたいが、自分も年を取って危険だから家族から人を乗せないように言われる
参加しにくい遠方の地域にいる信徒への配慮
高齢者・障がい者への配慮
現実的にアクセスのよさ、駐車場、時間的ゆとり
日常の多忙（やりたいことも多い）で、教会に向ける時間をとることが少なくなってきている
仕事に追われている、特に女性は仕事と育児と介護の全てを担う状況、男性社会の中の不自由
高齢化、体調で教会に行きにくいのは確かだが、コロナ禍でミサ参加しなくてよいということに疑問

コロナ禍でミサが中止に～信徒が遠のく一つの要因に
コロナのためにほとんど２年間、主日のミサが中止となり、日曜日にミサに行かないという習慣ができた
コロナのせいでリズムが狂った、主日のミサの義務感がうすれ、休むことに後ろめたさがなくなっている
コロナ渦で教会に行くことが難しく、ミサに行かないことに慣れて、日曜に教会に行く気持ちが薄れてきた

ミサがないという連絡をもらうと安心している自分がある
思いを一つにして、ミサに参加するが、コロナ禍では地区別のミサ参加で思うように共に祝えていない
コロナウィルスに感染するのがこわくて教会に行けない方、行かないという方もいる
コロナ禍が信仰を妨げようとし、人のつながりや祈り、愛、一致など信仰の基本を揺るがせにしている
ミサの参加は後退し、参加者は減ったが、原因はコロナを恐れるあまり、教会活動を中止しすぎたこと
コロナ禍でミサがないことがあり、ミサに参加しないことに慣れてきた
リモート参加に慣れてしまってよいか疑問を感じる

コロナ対策で、集会・人との出会いが減っている
コロナ禍で典礼に参加する人は少なくなり、朗読も同じ人ばかりで、お願いしても断わられる
コロナ禍で子どもたちもおらず、侍者をする方も少なくて、限られた人にご負担がかかっている
コロナ禍で侍者なしになったが、感染予防上問題がないことで、できることがないか考える
コロナ禍で典礼も縮小され、制限も多く一方的に奉仕をお願いできない
コロナ禍によってミサが中止し来られなくなった人が多くおられる
コロナ禍もあって参加者も少なくなり、教会活動は後退している
コロナ禍で数年、一緒に祝うことがなくなってしまった、皆が主体的に祝う
コロナ禍のせいにして教会に行かなくてもよいと思う人がいる
コロナ禍で足が遠のいた信徒がもどってくるかどうか気になる
コロナ禍で参加できない、モチベーション低下、コロナ禍における典礼のあり方がわからない

コロナ禍のためにミサで歌えなくなり、ミサに力がなくなってきたと感じる、歌えないと寂しい
コロナの影響で聖歌も歌えず、声を出すことも控えている状態に不満
コロナ禍の終息後、来ていない信徒、特に若者、日曜学校があるから来ている大人が来るか心配
コロナ渦で制約が厳しくなり、ミサを準備する方も固定化、みんなで参加することが少なくなった
コロナ禍で奉仕のために参加を頼むことがはばかられ、結局、役員、評議員に担ってもらうしかなかった

聖体礼拝の参加が減っている、コロナ禍でさらに減っている
コロナの影響で再開されたものの、ミサの参加者は減った
地区別のミサの参加は他地区の方との交流が減った
日曜日にミサに与ることが減り、それが新しい日常になっていく

日曜学校もコロナ禍で開催されず、子どものミサの参加が少ない
日本の家族の在り方に変化があり、子供たちのミサ参加が途絶えている
子どもと来ていた親もミサの参加が減っている、フォローが必要
短時間の子ども向けのミサがあってもよい
典礼聖歌集だけでなく、ギターで演奏する曲があってもよいと思う

日本語のミサにおいても朗読・歌の多言語化
他国の信徒は信仰が日本人よりも深い、より積極的にミサの侍者として参加してほしい
主日のミサをいろんな言語のミサで行っていて、日本人は日本語のミサに参加することが多い
日本語ミサは特別な感じだが、外国語ミサは生活の一部で、温かさがある
ベトナム語のミサがあるとよいと思う
外国人の目から見ると溶け込めないところがある

参加が少なくなってきていると感じる
参加できない人に手助けが出来たらよい
誰でもが入りやすい教会
アットホームと思っていたのに、実際には違和感もある
一度足が遠のくと再び参加することはない傾向
積極的に担っている人たちと、そうでない人たちとの格差が大きくなっている
先唱やミサ準備を輪番でお願いしたいが、一部の方々のみで実施している
いろんな人に聖書朗読をしてもらいたいが、声を掛けても断られ、典礼係も苦労している
勇気をだして侍者を引き受けてもらえれば大切なことがわかるようになると思う

手伝いたいと思うのに機会がない
声をかけてもらえれば喜んで手伝うと思う、やはり呼びかけが必要なのではないか
システム化して順に頼めばよいのではないか
コロナ禍で誰にでも頼めない、約束しても教会に来るかどうかわからない
利己的な方をたしなめてミサの当番を運用する
ミサ奉仕は得手、不得手があり、無理強いはやめたほうがいい
それぞれの役割を分かち合って参加できればいい
自分が必要とされていなければ教会には来なくなる
仕事に疲れ、日曜日はゆっくりしたいと考え、ミサまであずかるが、それ以上の仕事はしたくない人は多い
さまざまな奉仕があるが、年々参加は高齢化に伴い、後退している

若者が参加しやすいように考える
若い人が少なく、高齢者が多くなっているので思うようにいかない
信徒数が減ってきている、昨年は堅信を受けた人がいない
若い世代が少ないことは、後退である
若い新しい信徒は増えないので、教会の維持は年々難しくなっている
次世代が教会に来ないことで後退している

ただ参加しているだけで、歳をとるとあまり協力できなくなる
教会での様々なお祝いがあるが、年齢を重ねて祝うことを主体的に行うのがむつかしい
典礼係として毎週のミサに奉仕される人たちがゆっくりとミサに与るという余裕がない
少子高齢化で担い手が高齢化し、香部屋係の役が大変で悲鳴を上げている

典礼奉仕が難しくなっているが、それぞれの得意不得意があり、出来ることからやってほしい
典礼への参加が習慣的になっている、日曜日に義務的に教会に行っているだけだという反省
ミサ・教会の掃除に参加されている人はいつも同じ顔ぶればかり

信徒のつながりがあることが重要
よく知った者同士が固まり、小さなコミュニティで仲良くしているが、他のグループとつながる機会は少ない
信徒数は増えているので、当然集団のまとまりとしては後退している
来られない人、来られなくなった人へのアプローチが難しい
教会に来ていない人に声をかけてともに祝うこと
活性化したい、たまにしか来ない人にも声をかけるようにしたい
広い心で久し振りに教会に来た人を心から迎え入れられるようでなければ、その人も来にくくなる
昔、司祭から教会に初めて来た人に声掛けせず帰したら怒られた、今もっと声掛けを積極的にする必要がある

主日ミサなど、Facebook を立ち上げる
ミサに与りたくても与れない人のためにオンラインミサが続いて欲しい
オンラインミサなども周知が必要、コロナ禍では広報こそ重要

多様なグループが絡み合い、小さなグループのどこかに所属でき、居場所があれば力を発揮することができる
昔から来ているが、典礼の手伝いをしたくても声をかけてくれる人もなく、手を出してよいかわからなかった
教会で自分の役割ができれば、ずいぶんと変わってくる
担当が決まっているのかどうかわからず手を出しにくい、だれか指示してくれればよいのにと思うことがある
祈りや典礼に積極的な人と、そうでない人がいて、広がっているとは言えない
ミサの参加はあまり広がっていないが後退もない

ネット配信のミサは、画面をずっと見ているのが疲れる
ネット配信のミサではご聖体をいただけないので、やはり実際のミサに参加したい
ネット配信のミサは個々にネットを観ているので、共同体と繋がり薄れていく感じで、共に祈る感じがしない
オンラインのミサに信徒が求めるのは、聖体拝領気分であって、一緒に参加する仲間を求める信徒はいない

＜課題＞

一日に何回もミサがあれば、用事があるときは土曜や日曜の早朝のミサに参加できる
平日でもミサに参加でき、祈りのために集まれる機会がほしい
ミサを常にYouTubeにアップして、お祈りする機会をふやしていく必要がある
集って祈ったり、ミサに参加することをのみを目指すのでは時代に対応しないと思う
様々な理由でミサに来られない人が自分の居る場所で祈る〈祈り部〉を作り参加する
ミサに与れない病気の人に聖体奉仕者が御聖体を届けるが、受け入れない家族もあり限定的

教会でミサに与かることが、楽しい雰囲気ではなく堅苦しさを感じておられる方もいる
典礼にかかわろうとすれば神への最小限のマナーがあることを知ってほしい
ミサの準備は手伝ってほしいとは思うが、間違いがあってはならないと思うとうかつに頼めないところがある
失敗してもよいからやってもらってみてはどうか
失敗が許されない時代に育ったので、失敗には恐怖があり、引き受けるのは簡単ではない

人間関係の躓きのために祈れない、信仰以上に負担になるのは残念
口では神を信じるといいながら、実際はひとへの思いやりに欠けるひとばかり
強い信仰心をもって、祈り、対話、教会活動を行うべき
信仰とは何かが、よくわからなくなった
信仰についていくのが精一杯

体調不良の人もあると思うが、お年寄りも多く、ミサは自分の意思で与るので、強制できない
集団改宗で信徒となり、そういうものと信仰生活を送り、年月とともに信仰もうすれ、教会から遠のいた
無責任に人任せにしないこと、若年層の関心を集め、参加を促すことが急務

一人一人の祈りが人を呼び込み、一つの輪を作っていく、そこに力を注がねばならない
昔はロザリオの祈り、十字架の道行きなど暦に沿った祈りをきちんとやってきたが、今は少ない
子どもの頃は嫌になるほど祈りをやらされ、さらに黙想会、ミサと続いた
信徒の中で祈りや黙想ができるようにならないか
共同祈願は形式的な感じがするが、自分たち各々のことばで表現するのが本来
イグナチオの霊操など大人の祈りもやってほしい
子どもの頃の教会での祈りの体験は大人になってもどこかに残り、将来教会へ向かおうという気持ちになる
学生時代に学校で定期的に祈っていたことが心に染みて残っている
子どもが教会で勉強したことにより親がそれに惹かれて教会に招かれることがある

輪の核となる人を支える配慮をしてあげれば良いだけ
教会が遠くなって参加出来ず、とても悲しい
高齢化や少子化においてチームワークが必要
若い人は参加していないのではなくて、地域の若い人が減少している
受洗者がないが、受洗しても必ずしも教会に来るわけではない
代親の責任と役割を考えたい

他の教会の取り組みを知りたい
いいものは広がる、広がらないのは問題があるからであり、工夫すれば広がる
ブロックでの取り組みができていない
主導する人がいない

以前はもっと信徒参加型だったが、今はミサが司祭のものという感じがする
説教で、ニュース解説型もときには良いが、本来はイエスのことばについて話をもっと聞きたい
典礼について司祭に聞くと信徒任せであったり、司祭によって答えが違ったりするので、基準がよくわからないことがあるが、その傾向は共同司牧になってから強いと感じる
司祭のために信徒が祈るという習慣が減った

熱心な信徒からすると現状は不満に感じられる
ゆるしの秘跡の時間帯が短い、改善できないだろうか
参加は個々人の意識の問題、ひとそれぞれでよい
平和で満たされているときは、祈り、典礼への参加は後退しがち
最近神からの招きが少ないような気がする

祈りと典礼が教会の重要な決定にどのような刺激を与えているのかわからない
期待はあるが信徒の積極的な参加に結びついているのか分からない
ミサの構造が仲間との交わりを大切にしているようには見えない
今回の典礼の変更も、世界標準にミサの形を近づけるという意味合いが強く、日本の信徒が仲間を大切にするためのミサ改革、信徒でない人が参加してみたくなるためのミサ改革、社会のために教会が働くためのミサ改革とは思えない

〈その他〉

統廃合について教区の方向性に腰が座っていないし、信者も浮足立っている
典礼部としては他の項目は回答しにくい、評議会制度になって誰も責任をとらず、役員も複数になって責任をとらない
祈りや祈りの習慣が減った一方で、活動を重視しているのは疑問